

教育の質の点検・評価のための学外の参画に関する報告書（2024年度版）

2025年3月31日

副学長（内部質保証担当）佐藤 淳

1. 北海学園大学の教育活動・学生支援に関するアンケート調査

(1) 調査概要

- 1) 対象 民間企業・団体・自治体・官公庁 1,161社にキャリア支援センターから依頼
- 2) 調査期間 2024年12月13日～2025年1月15日
- 3) 調査内容
 - ①学生および卒業生について ②採用について ③インターンシップについて
 - ④本学の教育について ⑤本学の取組について
- 4) 回答数 320件（回答率 27.6%）

(2) 調査結果：2024年度 アンケート調査結果（別紙参照）

2. 企業・自治体との意見交換

(1) 面談日

（民間企業）2025年2月25日（1社），2月26日（1社），3月26日（1社）
（自治体）2025年3月11日（1団体）

(2) 意見交換先

民間企業3社：人事担当者
自治体1団体：総務・人事／DX担当者

(3) 意見交換の内容

①本学卒業生の勤務先での状況について，②本学の入学者選抜について，③本学の建学の精神による教育目標とカリキュラムの内容について，④今の学生に感じることや学修成果の活かし方について，⑤今後の人材育成に向けた大学教育への期待について

(4) 意見交換における特記事項

①本学卒業生の勤務先での状況について

まず本学の卒業生の状況を尋ねたところ，「学業は当然として課外活動や遊びを通して色々なことを経験している方が多い印象」，「周囲とのコミュニケーションを上手く取り，後輩への指導も良くしてくれている」，「早期の退職が無く定着している」，「他大学よりも頭一つ抜き出てレベルが高く，4年間の学業（主にゼミ等）で養った知識や経験を十分に発揮している」，「コミュニケーション力があり，人と人との繋がりを持ち，主体性を持った者が多く，評価が高い」などの肯定的ご意見を多くいただいた。一方で「仕事より家庭やプライベート重視の傾向がある」との指摘もなされ，本学の卒業生にもワークライフバランスを重視する傾向が強まっていることが窺える。

②本学の入学者選抜について

主に総合型選抜や推薦入試等のいわゆる年内入試の功罪について尋ねたところ、どの担当者も「基準に沿って選抜がなされていれば問題ない」との認識であった。その理由を含め出された意見を列挙する。「傾向として早期に入学が決まっている状況において、面接や小論文などでの選抜は問題無いと感じている。勉強してこなかった生徒の受け入れは困るが、多様な選抜制度を設けていることは良いのではないか」、「大学 Web サイトの入学者選抜を見た限り、学部・学科それぞれのアドミッション・ポリシーに沿って、選抜制度が設けられており、大学でのカリキュラムの位置付けとも相まって理にかなった制度になっていると感じている。入学後も何を学び、どのような能力を習得するかが明確になっているのは良いのではないか」、「アドミッション・ポリシーを拝見したが、主体的に学ぶ意欲や、社会における課題に向き合うなどの人材育成を掲げて入学者選抜を行っていることが伺えた。卒業生の活躍を見る限り、大学の教育によって判断力・思考力が磨かれていると感じており、社会人のスキルとしては有益な力を持って卒業しているため、選抜制度については問題無い。学校推薦型選抜や今後進められる総合型選抜を利用する早期入学者の場合は、大学入学まで 3 か月以上期間があるが、勉学は勿論のこと大学で学ぶための準備を十分に行えることになるため、高校までとは異なる学修スタイルに対して、ギャップを埋めるための時間に充てられるので問題は無いのではないか」、「入学者選抜の手法については、課題感はない。いかなる選抜でも大学受験というハードルを乗り越え、希望をかなえるため頑張った方であれば良いのではないか。大学入学後に、入学者選抜ごとにどのように成長し伸びて行ったかを調査しているかは大事である」といった大いに参考になるご意見をいただいた。

③本学の建学の精神による教育目標とカリキュラムの内容について

事前に「建学の精神」および「使命・目的」を本学 web サイトからご覧いただき、教育内容についてのご意見をいただいた。「最近の学生は道外で就職することに抵抗が無い状況にあるが、貴学のように北海道に根付くことに焦点を当てた教育目標とカリキュラムによる学びの提供は、とても重要である。大学での学修においては、広い視野で物事を見ながらも「地元愛」を持ち、地域の特性を理解した上で一步進んで何ができるかを考え実行に移すことが可能な人材育成のための教育はとても重要である」、「建学の精神や学長挨拶からもカリキュラムの組み立てとしても、北海道や地域の課題を解決することが示されている。まさに地方や地元と密着した実社会において、このような能力を育成することは、企業が必要とする人材とリンクすると感じている」、「PBL による授業や、自分で問題を解決する力を養うための授業が、ゼミ以外の一般講義の一部でも実施されている。こうしたカリキュラム編成が運用されていることは、建学の精神に示された「自立と自律」の考えと一致しており、一昔の大学の授業スタイルから変化が見られ、とても良いと感じている。学生にとっては、成績評価に至った経緯を個別にフィードバック、講評することが学修成果を高める（理解

する) ためにとっても重要である」, 「大学の教育を通して, 自ら課題を探し解決できるスキルを身に付けている学生は, 採用側としてはウエルカムである。大学で掲げている人材育成方針により, 大学時代に身に付けた知識やスキルをアウトプットできる柔軟性や, チャレンジするマインドを持つ学生は魅力的である。社会のニーズに対応した授業方法の変化は重要であり, 北海学園の教育の方向性は良いのではないか。また, アウトプットするにもインプットを効率的に行わなければならない, 単位認定における自学自習時間などの課題にも向き合うことも必要になるのではないか」との貴重なご意見をいただいた。

④今の学生に感じることや学修成果の活かし方について

現在の学生気質や学修成果の活かし方について尋ねたところ, 「コロナ禍での影響も大きいと感じている。一人で何かをしなければならなかった世代であり, 何事にも経験が不足している。周りとの人間関係を作り上げていくことが出来ず, 可愛そうな面もある。個人面接では問題無いが, グループ面接は, 苦手な学生が多い印象。コロナが明けた今でもこうした影響は続いており, 急に従来の学生気質にもどることは難しいのではないか。仕事を覚えるスキルは十分であるが, 周りの人と仕事を行うことに重きを置いて欲しいと感じている」, 「面接時に入社意思の強い学生は, 地域密着型の企業形態であることなどを研究されていると感じている。営業活動では年代を問わず同じ感覚で接することが求められるため, コミュニケーション能力が重要である。昔の学生よりアピールは不足している(抑えている)と感じる場面も多いが, 企業側からの引き出し方によっては学生時代に修得した学修成果を元に, 自分をアピールできる能力はあると考えている。特に最近, ワークライフバランスに代表されるような福利厚生面を重視する傾向にあり, 早期(3年程度)の転職についての抵抗がなくなってきたと感じている」, 「採用を担当していて感じることは, 売り手市場である就職活動において控えめな学生が多く, 自分を全面に出す学生は少ないと感じており, 落ち着いたイメージである。入職後, 指示した作業は能力が高く優秀な学生も多いが, 「定時で帰宅したい」, 「業務を効率化して早く帰りたい」と願ういわばワークライフバランスや福利厚生面を優先する考えを持っている方が多い状況である」, 「ネット社会の現在において情報収集力の高い学生が多い印象であり, 面接時に会社のIR情報を見て質問する学生も居る。ワークライフバランスを重要視しているためか, 上昇より安定を好む傾向がある。面接時に受ける印象としては, 素直だが質問に対するレスポンス(発言)が少ない。インターンシップに参加する学生の対応は問題が無いが, 集団面接時に多人数が居る場では, 自己表現をしない学生が多い印象。大学の教育では, 自己表現力を高めることが重要であると感じている」といったご意見をいただいた。

⑤今後の人材育成に向けた大学教育への期待について

今後の大学教育への期待について伺ったところ, 「大学で養った教育・研究の知識ベースは十分であるが, 自ら組み立てるスキルは, 一般企業で活躍できるポイントで

ある。新人研修では、教えたことには素直に対応するが、フリーで課題を与えるなどのミッションは苦手な職員が多い状況である。主導的な役割と周囲の人間関係を組み立てられる能力が、企業では求められるスキルである。大学での学びとして、グループ学習やゼミナールを通じて、人と人との調整力を持つ学生の教育が重要である」、 「会社として、窓口で最初に相談を受ける機会を大事にした、地域と密着した営業を心がけている。そのため、建学の精神や、各学部のカリキュラム等を見る限り、貴学での学びによる人材育成の方向性は間違っておらず、企業が求める人材と全く一致している。コロナ禍を経て、対面によるコミュニケーションが大事である点を注視していただきたい。また、悩みや課題をどう改善するかを高められる教育もとても重要である」、 「地方公務員は、地元や地域のために最善を尽くすことがミッションである。自分自身でも「仕事のやりがい」を持って取り組むことが自然と身に付けられる人材がとても大事になってくる。地域のために働く人材をこれからも採用したいため、これまでどおりの大学教育を期待している」、 「大学生活では学修が中心であることには間違いないが、スポーツやアルバイトを含む諸活動を通じて人間力を養うために、4年間を充実してもらいたい。挫折や成功体験を踏まえた人間形成が大事である。教員や職員には、One to Oneなどの面談を通じて学生の持つ課題感に寄り添える機能を持っていただくことが重要だと感じている。また、学部・学科の特徴を活かした特色ある科目や、実務家教員の活用等の実施を充実されることが大事だと感じている」との貴重なご意見をいただいた。